

# 令和6年度 せらにし小学校教育研究計画

## 1 教育研究のテーマ

### 研究主題

「考える」授業を創造し、児童の主体性・表現力を高める  
～道徳科における「対話」の充実を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日的課題から

「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」では、「道徳教育において自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともによりよく生きるための道徳性」を養うことが求められている。そして、道徳科では、授業の中で、「道徳的価値について理解する」「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」ことを通して道徳性を養うとしている。

そこで、「考え・議論する」道徳を行うことで、児童生徒が常に自己の生き方を見つめながら、他者とともにより多様な視点から話し合うことを通して、自己のよりよい生き方を考えていくことができると考えられる。

### (2) 学校教育目標から

小学校では、学校教育目標「自ら学び、たくましく生きる」を実現させるため、「自ら考え、自ら学ぶ児童」「ふるさとに誇りをもつ児童」「自らを鍛え、自らを管理する児童」の育成を目指している。学習活動においては、児童が主体的に学習に取り組み、友達と関わり合いながら学ぶ中で、学びを深めたり自らの学びをふりかえったりする姿を目指していく。

### (3) 本学区の実態から

昨年度からの「道徳教育推進拠点地域事業」の取組の成果として、対話を充実させる授業づくりは、児童生徒の主体的な学びを促し、対話を通して自己の考えを深め、自らの生活に進んで生かそうとすることにつながるなど、児童生徒一人一人の道徳性を豊かに育んでいく上で有効であった。しかし、「自分の成長やよさを実感できる活動」や「話し合いの深まり」が不十分などの課題が残った。

また、道徳教育推進拠点地域事業に係る児童生徒の意識調査において、「道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている」「道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の肯定的評価が共に96%を示している。教職員が対話的な授業を行おうと意識して授業づくりを行うことで対話を通して自分の考えを広げたり、深めたりしていると感じる児童生徒が増えたと考えられる。中心発問に対する話し合いや自己の生活を振り返る話し合いを通し、考えがより深まったり、更に掘り下げて考えたりすることができてきつつある。今後は、さらに話し合いの充実に取り組み、友達の考えに「つつこむ」

ことができる話し合いを定着させ、さらに対話が深まり、充実するものとなるように工夫する。

以上のことを踏まえ、研究主題を『考える』授業を創造し、児童の主体性・表現力を高める」とし、対話の充実を通して自己を見つめ、よりよく生きようとする児童を育成する。

### 【めざす子どもの姿】

内容項目	低学年	中学年	高学年
A 希望と勇気、 努力と強い意志	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う子	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く子	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く子
B 親切、思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にする子	相手のことを思いやり、進んで親切にする子	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする子
C 勤労、公共の精神	働くことのよさを知り、みんなのために働く子	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く子	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役立つことをする子
C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつ子	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつ子	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ子

児童に身に付けさせたい資質・能力について、せらにし小・中学校の9年間を発達段階に応じ、前期の4年間・中期の3年間・後期の2年間に分け、それぞれの時期で、育成を目指す資質・能力は下図の通りである。（図1）

### せらにし小中一貫教育で育成を目指す資質・能力 評価規準表

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
<b>知識及び技能</b>				<b>知識・技能</b>			<b>知識・技能</b>	
<b>知識・技能</b>				学習や経験を通じて、知識や技能を獲得できる。			学習や経験を通じて、知識や技能を獲得できる。	
学習や経験を通じて、知識や技能を獲得できる。								
<b>思考力・判断力・表現力等</b>				<b>思考力・判断力・表現力</b>			<b>思考力・判断力・表現力</b>	
<b>思考力・判断力・表現力</b>				自ら課題を見付け、解決に向けて計画を立て、情報を集め、よりよい方法で解決することができる。他者の考えをいかし、自分の思いや考えを筋道を立てて伝えることができる。			知識や経験を結び付け、協働して課題を解決し、新たな価値や課題を見いだせる。相手の思いや考えを理解するとともに、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができる。	
調べてみたい課題を見付け、解決するために必要な方法や手段を考え、実行することができる。相手の考えを自分の考えと比べながら聞き、根拠をもって考えを伝えることができる。								
「なぜ?」「どうして?」と疑問をもち、それを調べるすることができる。相手の考えとの違いに気づき、自分の考えを伝えることができる。								
<b>学びに向かう力・人間性等</b>				<b>主体性</b>			<b>主体性</b>	<b>人間性</b>
<b>主体性</b>				<b>自らへの自信</b>			<b>自らへの自信</b>	
進んで行動することができる。				周りの状況を見て、自分で考えてよりよい行動をすることができる。			目的を達成するために、状況を分析・判断して、自らの責任で適切な行動をとっていくことができる。	
友達のよいところを見つめることができる。				相手の立場に立って考え、助け合って行動することができる。			豊かな感性をもって物事や人の思いをきちんと受けとめ、思いやりの心をもって適正に行動することができる。（人権感覚をもった生徒）	
自分なりのやり方を考えて行動することができる。				友達と協力することができる。			地域を理解し、愛着と誇りをもって地域にかかわり、地域を語るることができる。	

図1：小中9年間で育成を目指す資質・能力

### 3 研究内容について

児童生徒が関わり合い、つながり合って、学びを深め合うためには、学び合う基盤づくりが大切と考える。これまでの研究を生かして学び合う基盤をつくることで、児童生徒が主体となって学習を進め、学び合うことができるようにする。その上で、教師はファシリテーター（目的達成のための活動を支援する役）として、児童生徒の主体的な学びを支えたり、軌道修正を図ったりする。児童生徒が主体的に学習に取り組み、友達との学び合いを通して、学習を深めていくことができるような授業づくりをめざす。

#### （１）道徳科における主体的・対話的で深い学びの実現

##### ①対話を促すための工夫

- ・自分の考えを書かせ、思いを表現させる。
- ・ペアトーク、グループトークなどを取り入れる。
- ・「対話の達人」を活用する。

##### ②主題分析図・教材分析図を基にした授業づくりとファシリテート

- ・主題分析図、教材分析図を作成し、主題とする価値からぶれない授業づくりを行う。
- ・教材分析から、児童生徒の反応を予想し、授業のファシリテートに役立てる。

##### ③問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な学習活動を取り入れた指導の工夫

- ・問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、“かかわり”のある道徳の授業研究を行う。
- ・理論研修の実施、シミュレーション型事前研修の実施

##### ④ICT 機器や児童生徒が考えを深めるためのツール

- ・ICT 機器の効果的活用（見える化、共有化）
- ・考え、議論を促すためのツールの活用

##### ⑤「自分の成長やよさに」気付かせることのできる振り返りの充実

- ・道徳ノートに振り返りを書かせ、コメントを書き、指導に生かす
- ・学習を通して分かったことや自分自身について、プラスの振り返りをさせる。

#### （２）コミュニティ・スクールを活用した地域との連携・協働による道徳教育の推進

##### ①総合単元的道徳学習プログラムの作成と活用

- ・道徳科の学習と他教科との関連を図り、児童生徒の道徳性を育む。

##### ②ふるさと学習とカリキュラムマップを連動させた地域教材での授業づくり

- ・ふるさと学習の事前や事後で地域教材での道徳科の学習を組む。

##### ③保護者や地域の人々の参加・協力による道徳科の授業の実施

- ・コミュニティ・スクールの活用、道徳参観日の実施

##### ④地域との連携による、魅力的な地域教材の見直し、整理、リニューアル

### 4 主な研究教科 道徳科

## 5 研究仮説

児童生徒が自己を振り返りながら考えることのできるテーマ発問を設定し、教師のファシリテートのもとで児童の対話を充実させれば、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、自己を見つめ、よりよく生きようとする児童生徒を育成することができるであろう。

## 6 検証の指標及び達成目標

○道徳教育推進拠点事業に係る意識調査（児童生徒、教職員）、学校評価自己評価表に係るアンケート調査により検証する。

検証の視点	評 価			達成 目標値
	方法	指 標	対象	
(1) 対話を充実させるための取組ができたか。	児童生徒意識調査	・「道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。」での肯定的回答の割合	児 童 生 徒	90%
	教職員意識調査	・「道徳科の授業では、児童が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている。」での肯定的回答の割合	教 職 員	100%
	教職員意識調査	・「道徳科の授業では、学習指導要領の趣旨を踏まえた、多様な指導方法の工夫を取り入れている。」での肯定的回答の割合	教 職 員	100%
	児童のノートの見取り	・授業を通して新しい価値に気づくことのできていた児童の割合	児 童 生 徒	75%
(3) ふるさとに誇りをもつ児童を育成するための取組ができたか。	児童生徒意識調査	・「今住んでいる地域や社会をよりよくするために、何かしてみたいと思う」での肯定的回答の割合。	児 童 生 徒	85%
	教職員意識調査	・「児童生徒に道徳性を育成するための体験活動は充実している。」での肯定的回答の割合。	教職員	100%
	教職員アンケート	・「せらにしのよさを実感できる取組ができた。」での肯定的回答の割合。	教職員	100%